

⑫ 溪谷

色彩的特徴



岩肌



水



植生(夏)



植生(秋)

河原では、両側を占めるやや色みを感じるグレイの岩石（「イエロイッシュグレイ」黄みの灰色、「ピンキッシュグレイ」ピンクみの灰色、「グリーニッシュグレイ」緑みの灰色など）の間を、透明度の高い水が流れています。

水深の深いところでは緑みを帯びた水の色が、また浅瀬では石や砂の濡れ色（吸水性の物の表面色が水を吸って、乾いた時の色に比べてやや濃く見える色）が、景観色となっています。これらの水の色は周囲の植生に比べて鈍い色ですが、周りをグレイの岩に囲まれたケースが多く、河原の彩りとなっています。

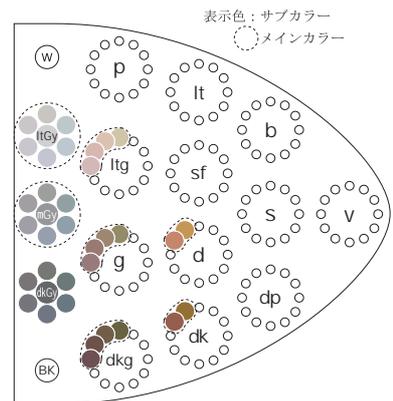
景観色として多くを占める近景・中景の山の植生は、季節により色彩が変化します。特にこの景観タイプの場合は、秋に著しい紅葉を見ることができます。

色彩選定のポイント

自然景観が資源になっている地域ですから、できるだけ自然素材の仕上材を使いましょう。また、人工素材は、土や石・岩などに類似した色彩とし、自然景観から受ける印象を変えることのない計画が望まれます。

メインカラー／サブカラー選定の考え方

周辺の植生と調和するアースカラーが基本になります。ホワイト系は自然景観に対してコントラストが高くなりますので、アクセントカラーとして使用するのがよいでしょう。またブラック系は近接景観で圧迫感が生まれますから、自然素材以外では、アクセントカラー程度の扱いにすることが望まれます。



溪谷〈メインカラー／サブカラー〉



溪谷景観の特徴である落ち着いた植生環境を明るい建物が損なっている例
(モニタージュ明度 8.0)



明度を落とすと自然景観の特徴を生かすことができる
(モニタージュ明度 5.5)



勾配屋根の建物にすると、壁面に落ちる影によってさらになじみ易くなる
(モニタージュ明度 5.5)

リブカラー

太い線材を用いる構造物に、ブラック系やダークグレイッシュトーンの色彩を用いると威圧感が出てくるので避けたほうが良いでしょう。

河川景観の橋梁と同様、中景と近景による検討、また季節による検討が望まれます。下に、推奨色による橋梁のカラーバリエーション事例を掲載しています。季節による検討を実施する際の参考にして下さい。

①ダークグリーン



②ダークブラウン



③ブラウン



④ライトブラウン



⑤グレイッシュイエロー



⑥ダークレッド



橋のカラーシミュレーション(夏)

①ライトブラウン



②グレイッシュイエロー



③ダークブラウン



④ブラウン



⑤ダークグリーン



⑥ダークレッド



橋のカラーシミュレーション(冬)

アクセントカラー

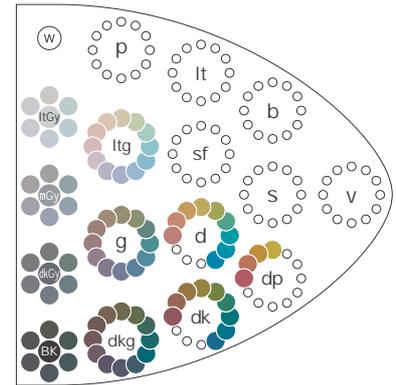
景勝地の多い景観タイプですからアクセントカラーによって雰囲気が損なわれるような鮮やかな色は避けた方が良いでしょう。



溪谷の入口にある物産店
(自然景観に対して主張の強い自販機)

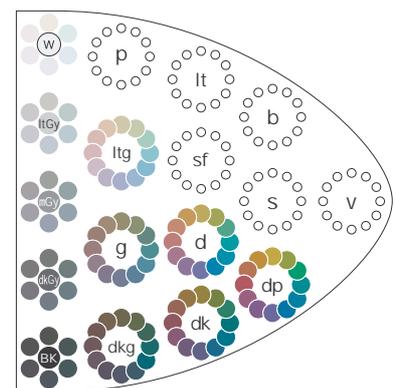


アクセントカラーの範囲内で変更した
シミュレーション事例

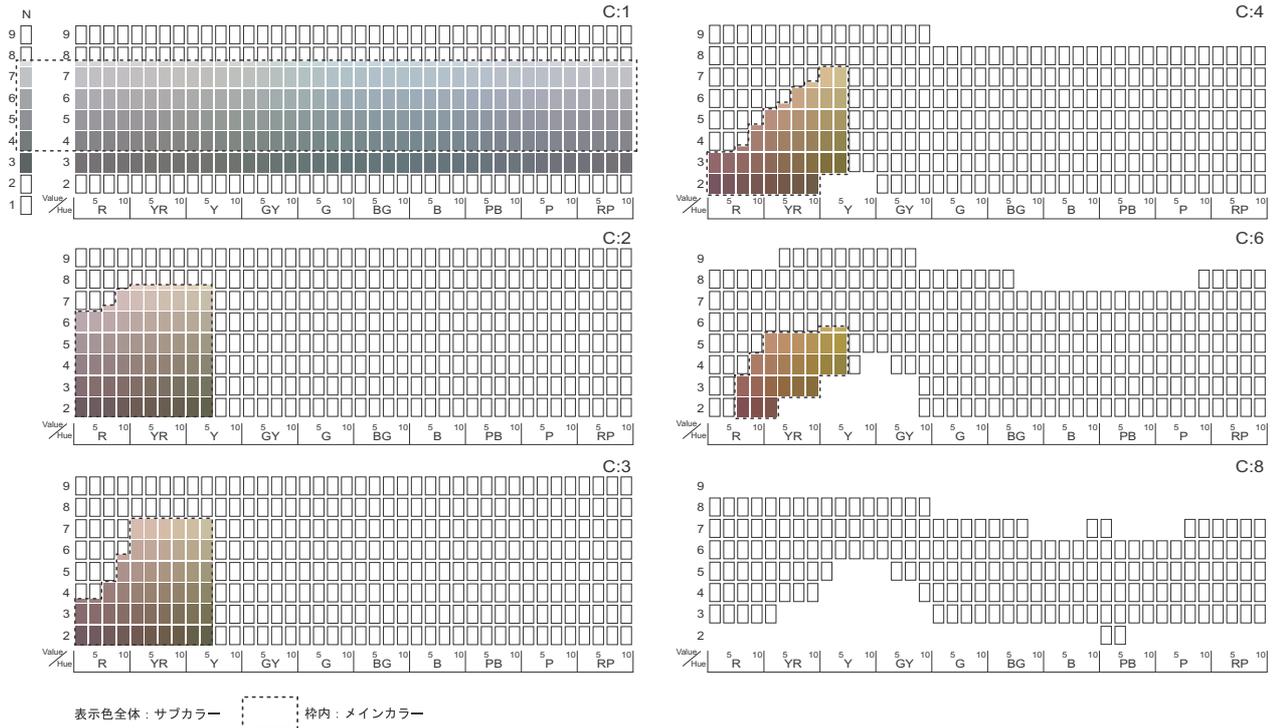


溪谷(リブカラー)

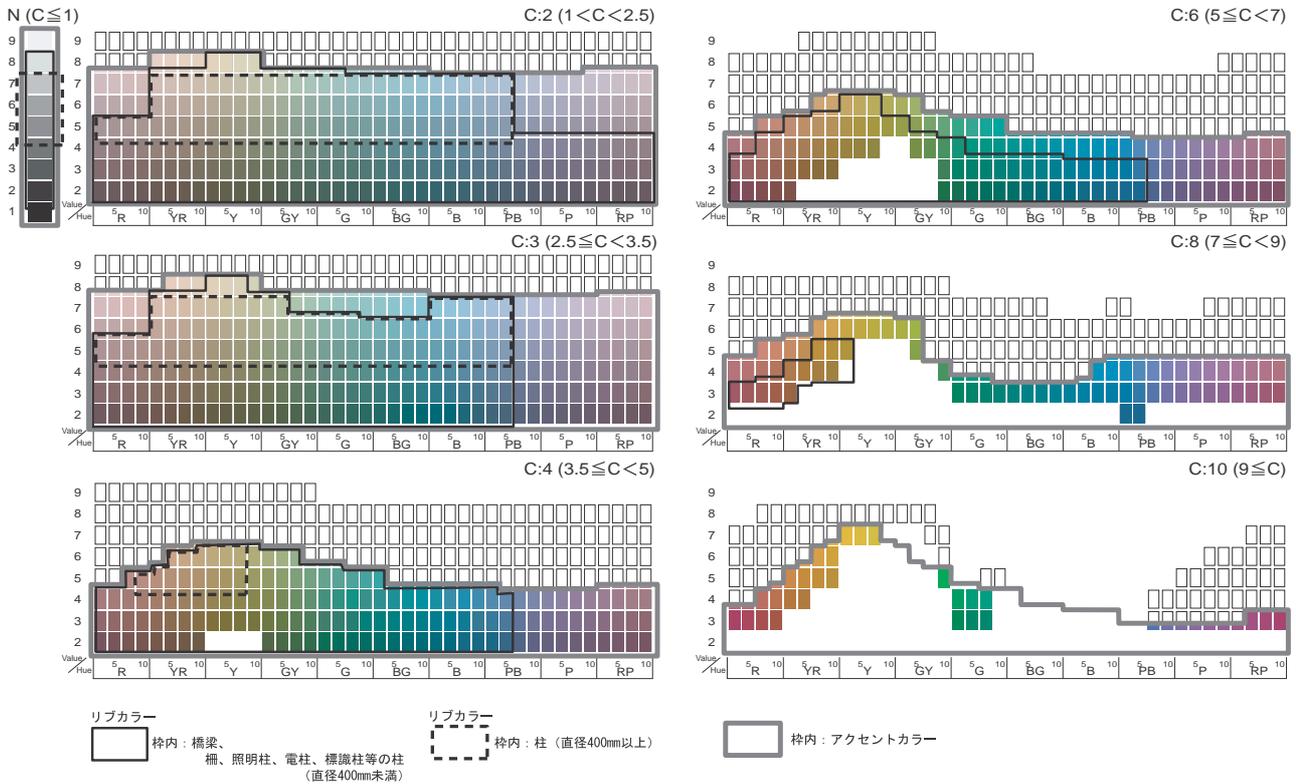
推奨色の中から検討色として6色選定し、夏と冬の景観写真をもとに作成したシミュレーション画像です。背景景観に対して融和性の高いと思われる順に番号を付けています。検討資料としてご覧ください。



溪谷(アクセントカラー)



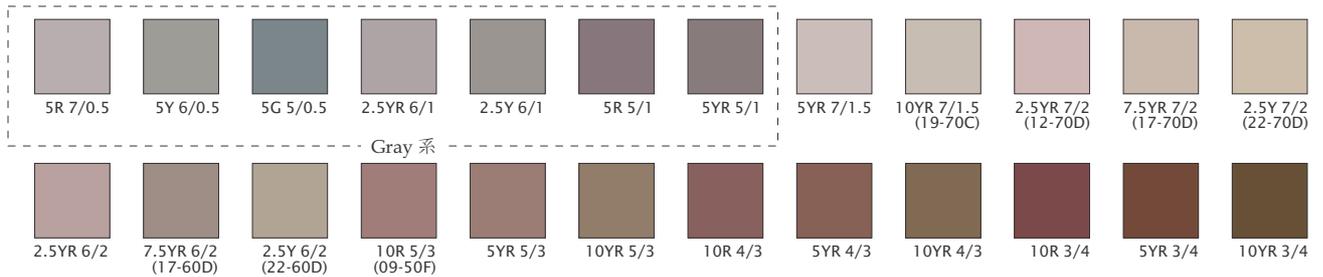
渓谷<メインカラー／サブカラー>



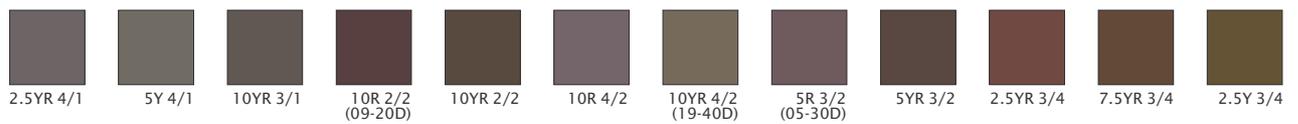
渓谷<リブカラー／アクセント>

カラーパレット 溪谷

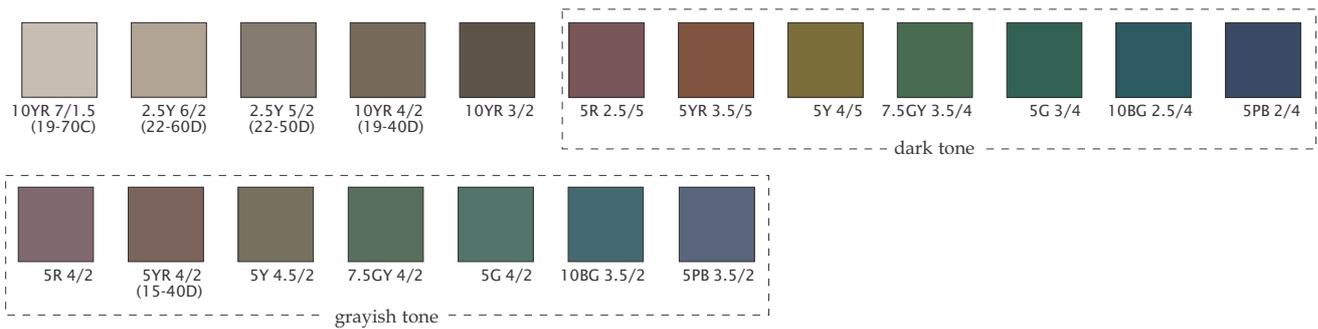
メインカラー



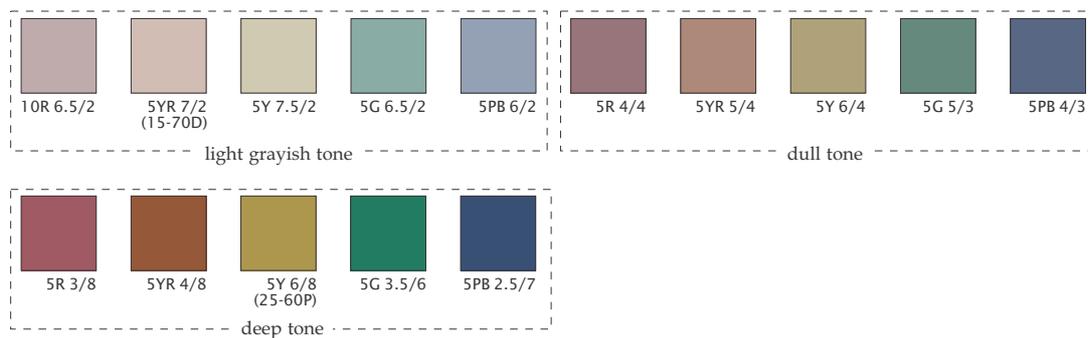
サブカラー (メインカラーもサブカラーとして用いることができます)



リブカラー



アクセントカラー (メインカラー・サブカラー・リブカラーもアクセントカラーとして用いることができます)

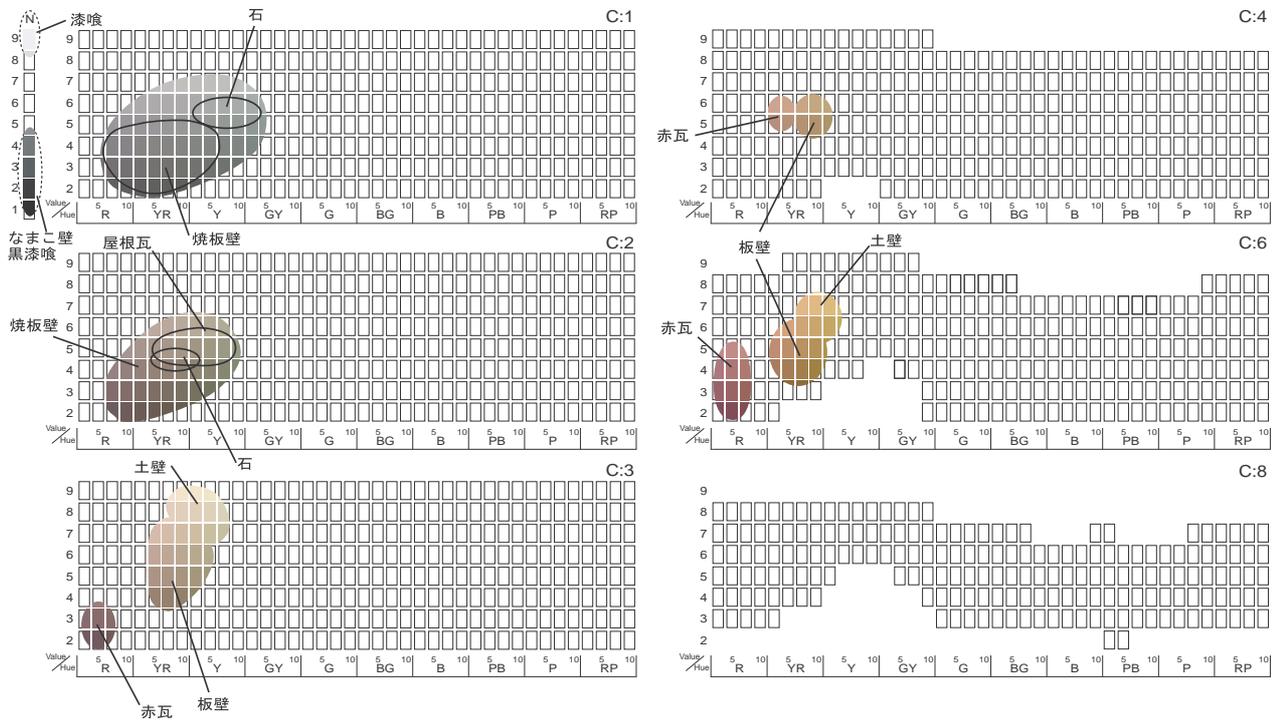


プロセス印刷のため、マンセル記号が示す色とは多少異なります。

⑬ 歴史的まちなみ

色彩的特徴

島根県内における歴史的建造物の色彩を調査したところ、
下図の色彩が使われていました。



〈歴史的建造物の色彩〉

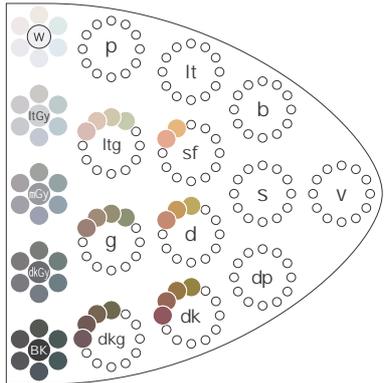
色彩選定のポイント



歴史的建造物群も地区によっては色の使い方が異なります。材料や仕上の違いで外見が異なってきます。白壁に焼き板の腰壁、なまこ壁、すさの入った土壁など様々ですが、通常、歴史的まちなみでは、ある程度同じ外見の建築物がかたまっています。このようなまちなみに新たに計画される建造物については、できるだけ材料や仕上を周囲に合わせ、既存の景観色と合わせるようにします。

メインカラー／サブカラー選定の考え方

歴史的建造物に使われていた色彩（上図）から、メインカラー／サブカラーをトーン図にまとめたものが左図です。
これは島根県の歴史的まちなみ全体の出現色ですから、立地点周辺の色彩傾向を確認し、既存の色に合わせてください。
また、神社仏閣において、一部の建造物が伝統的に丹塗りの鮮やかな朱色(ビビッドイエロイッシュレッド)となるケースがありますが、このように伝統的に定着している場合は、許容範囲とします。



歴史的まちなみ〈メインカラー／サブカラー〉

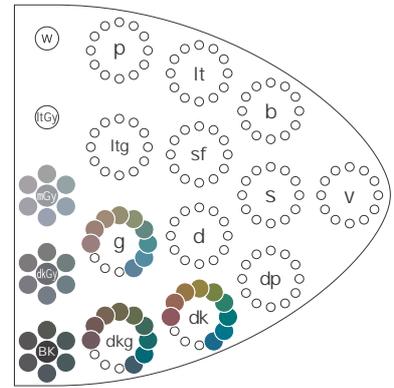
リブカラー

歴史的まちなみにふさわしくない歩道橋などの構造物は、対象として想定していません。街路灯のポールや小規模の橋の欄干などを対象としています。

また、神社の鳥居や橋などは丹塗りですが、ある特定の地域において伝統的に定着した色彩は、このように推奨色の範囲外であっても許容色とします。



伝統的まちなみにふさわしい橋の欄干の色彩



歴史的まちなみ〈リブカラー〉



神社の丹塗り
伝統的に定着した色彩の場合は、推奨色範囲外でもよい

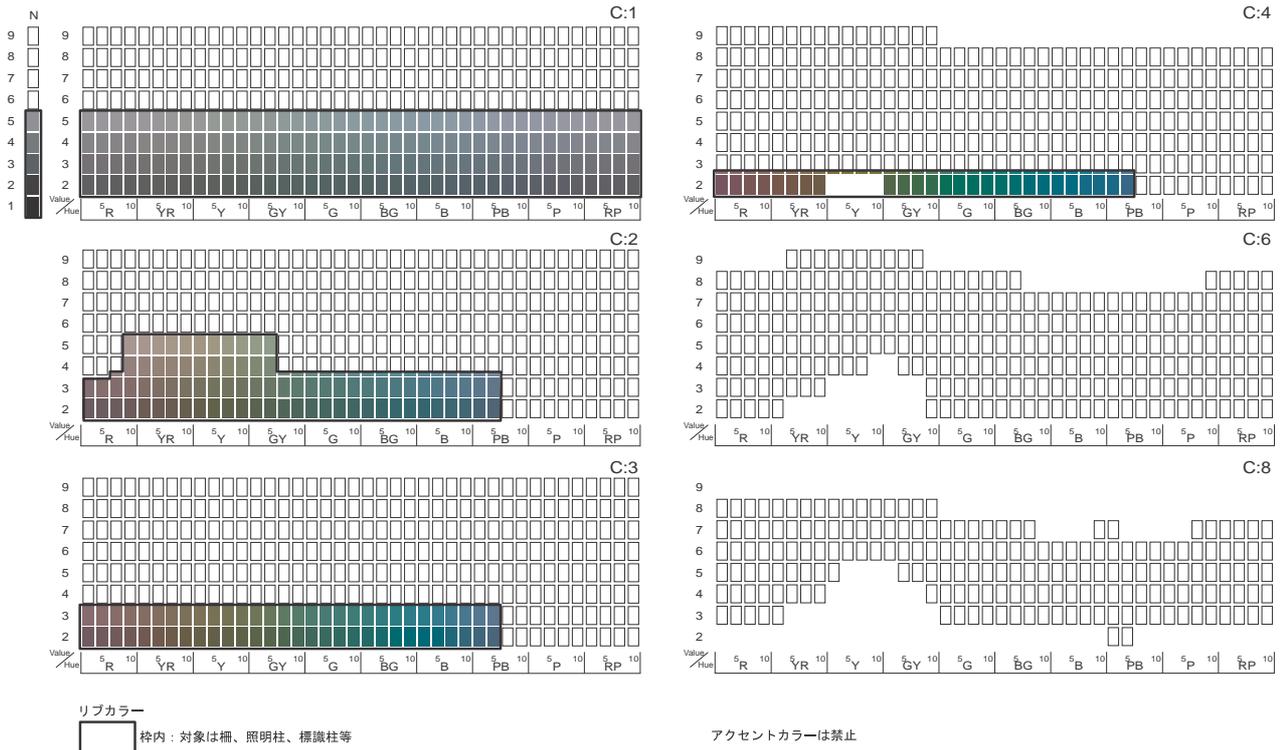
アクセントカラー

歴史的まちなみにおけるアクセントカラーの扱いは、それらの建造物が建てられた時代に習えばよいでしょう。

例えば草木染めの暖簾などがよい事例となります。



歴史的まちなみと暖簾



歴史的まちなみ〈リブカラー〉

カラーパレット 歴史的まちなみ

メインカラー／サブカラー

同じ歴史的建造物群でも地域によって色の使い方が異なります。
周辺の歴史的建造物の色彩に合わせてください。

リブカラー



プロセス印刷のため、マンセル記号が示す色とは多少異なります。

⑭ 温泉街

色彩的特徴

伝統的な雰囲気を持つ温泉街の景観色は、周囲の自然景観の色彩とうまく調和しています。

景観的配慮の感じられない温泉街では、原色の屋外広告物が目立ち、全体的に煩雑な印象を与えるケースが多いことも、今後の課題だと思われます。

長い伝統を持つ温泉街の中で、土壁などの自然発色の材料で作られた建物が並ぶ一帯は、整備された歴史的まちなみにも似た風情があります。



歴史的雰囲気を持つ外観



現状：土壁と白壁とが作り出す明度コントラストがメリハリのある印象を生んでおり、調和事例といえます。

色彩選定のポイント

近年新しくできた温泉については、その地域の景観タイプを特定して、そのタイプの方針にしたがって進めていけばよいでしょう。

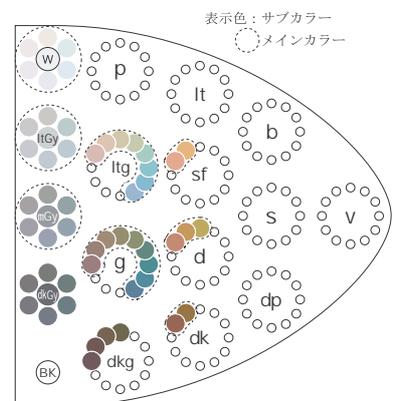
古くから続いている温泉の中で、小・中規模の旅館や保養施設が多くしかもその外観は伝統的なスタイルが守られている地域では、色彩についても伝統的なスタイルを踏襲することが望まれます。伝統のある温泉街で、近代化が進みホテルが点在するようになった地域でも、豊かな自然景観がまちの背景に見える場合がほとんどです。自然景観を生かす落ち着いた外壁色がふさわしいでしょう。



白壁を土壁に変え、色調を揃えたシミュレーション

メインカラー／サブカラー

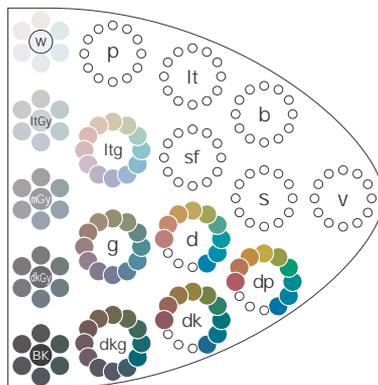
まちなみとしての統一感と周辺自然景観との調和を両立させている事例として歴史的まちなみがあります。歴史的まちなみに使われている色彩を適用すれば、自然景観に調和しつつ統一感のあるまちなみとなりますが、温泉街のまちなみ景観に求められる要素のひとつに、活気を感じられる雰囲気があります。メインカラーのバリエーションを増やして、やや彩りを感じられるまちなみとするのがよいでしょう。自然素材の土壁には様々な色がありますが、トーンは類似しています。土壁に現れる色彩をメインカラーの範囲に加えることによって、活気と統一された印象を持たせようとしたものがメインカラーの推奨範囲です。



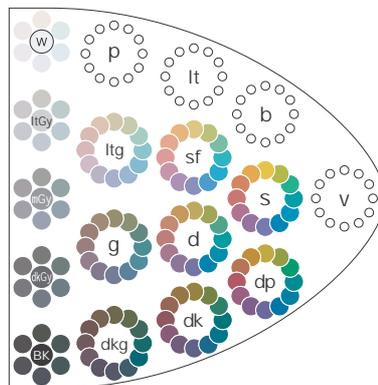
温泉街〈メインカラー／サブカラー〉

リブカラー／アクセントカラー

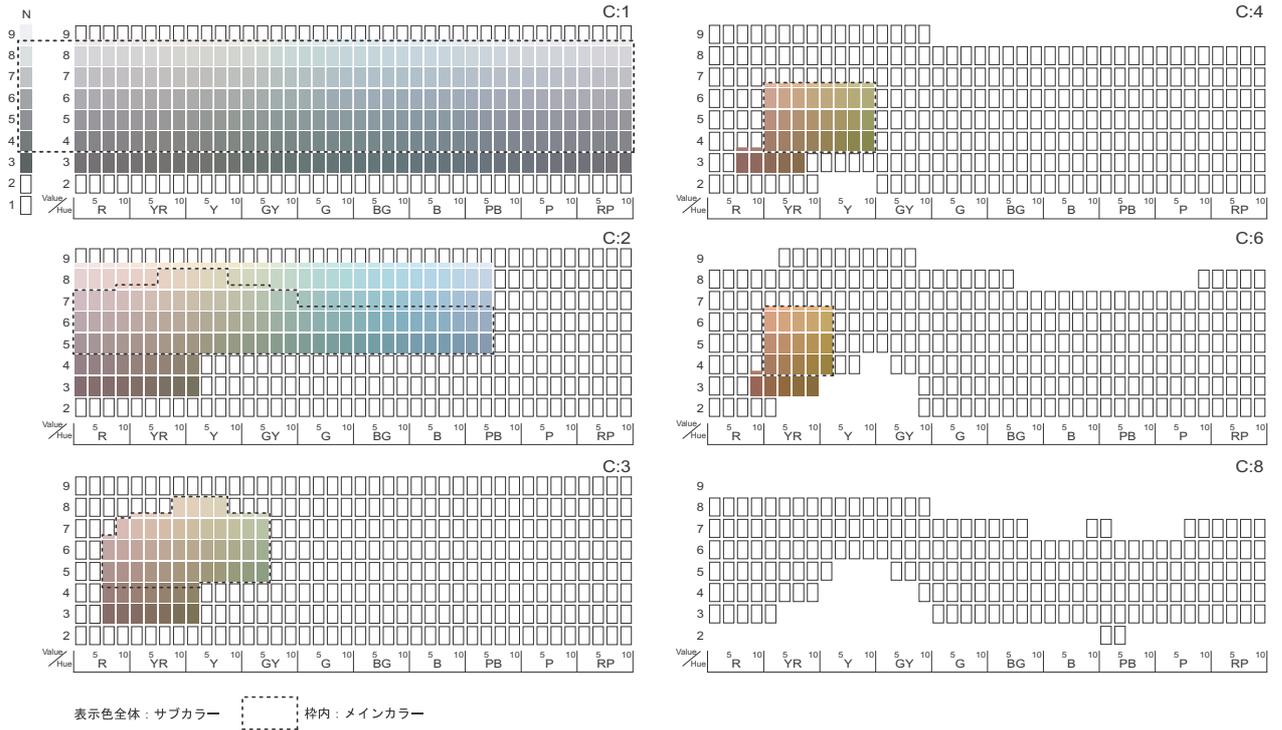
アクセントカラーのソフトトーンとストロングトーンについては、色を施す位置や面積について、全体景観が煩雑にならない配慮が必要です。



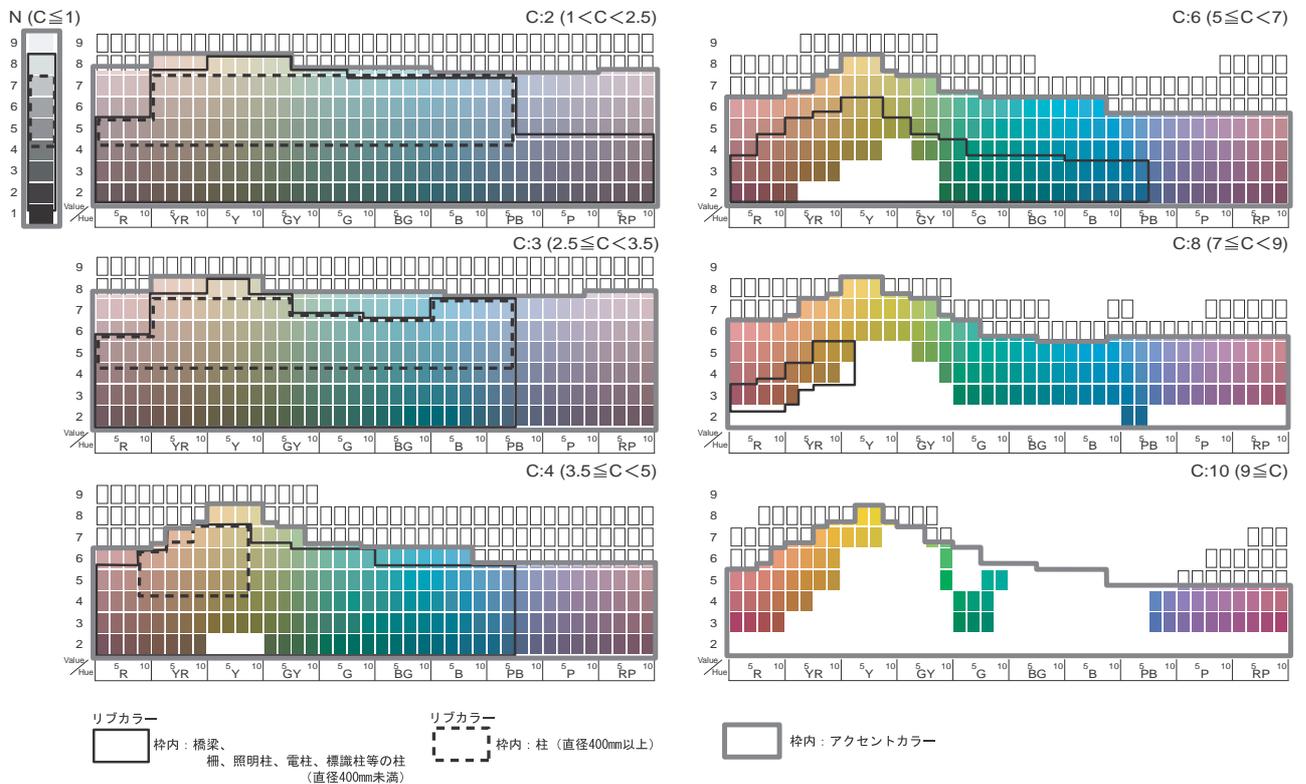
温泉街 <リブカラー>



温泉街 <アクセントカラー>



温泉街〈メインカラー／サブカラー〉



温泉街〈リブカラー／アクセントカラー〉